



令和5年2月14日

**地球観測推進部会提言
「地球観測・予測データの利活用によるSDGsへの貢献に向けて」
の公表について**

科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 地球観測推進部会では、SDGsへの貢献という観点から議論を行い、「地球観測・予測データの利活用によるSDGsへの貢献に向けて」と題し、地球観測とデータ利活用の好循環の実現に向けた課題や対応の方向性、求められる施策等の提言をとりまとめ、本日公表しましたのでお知らせします。

1. 検討の背景

地球観測は、気候変動をはじめとした地球規模の課題への適切な対処に貢献するものであり、その重要性はますます高まっています。

SDGsにおいては、主に生物圏（目標6“安全な水とトイレを世界中に”、目標13“気候変動に具体的な対策を”、目標14“海の豊かさを守ろう”、目標15“陸の豊かさを守ろう”）の現状把握等の根拠となっています。また、地球観測・予測データの利活用の中心はこれまで行政でしたが、気候変動対策や生物多様性・自然資本の保全、防災・減災等において、国際的に様々な動きが進展しており、民間企業等においても、地球観測・予測データのニーズが高まっています。

これらの動向を踏まえ、科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会地球観測推進部会では、令和3年6月より、SDGsへの貢献という観点から議論を行い、地球観測とデータ利活用の好循環の実現に向けた課題や対応の方向性、求められる施策等の提言をとりまとめました。

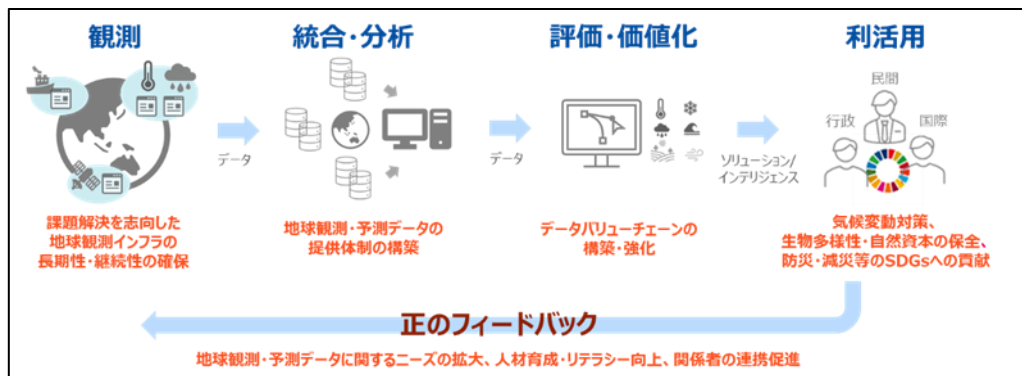


2. 提言のポイント

エンドユーザー（例：地方自治体、民間企業等）が必要とする地球観測情報や気候予測情報等を提供するサービス産業等の形成により、データバリューチェーンが構築・強化され、様々な主体において地球観測・予測データの利活用が進み、その結果、地球観測自体の一貫性・継続性が確保されるという正のフィードバックも備えた好循環を実現していくことが求められます。

本提言では、地球観測とデータ利活用の好循環の実現を今後目指すべき理念イメージとし、以下の論点ごとに課題と対応の方向性を整理し、求められる施策等を示しています。

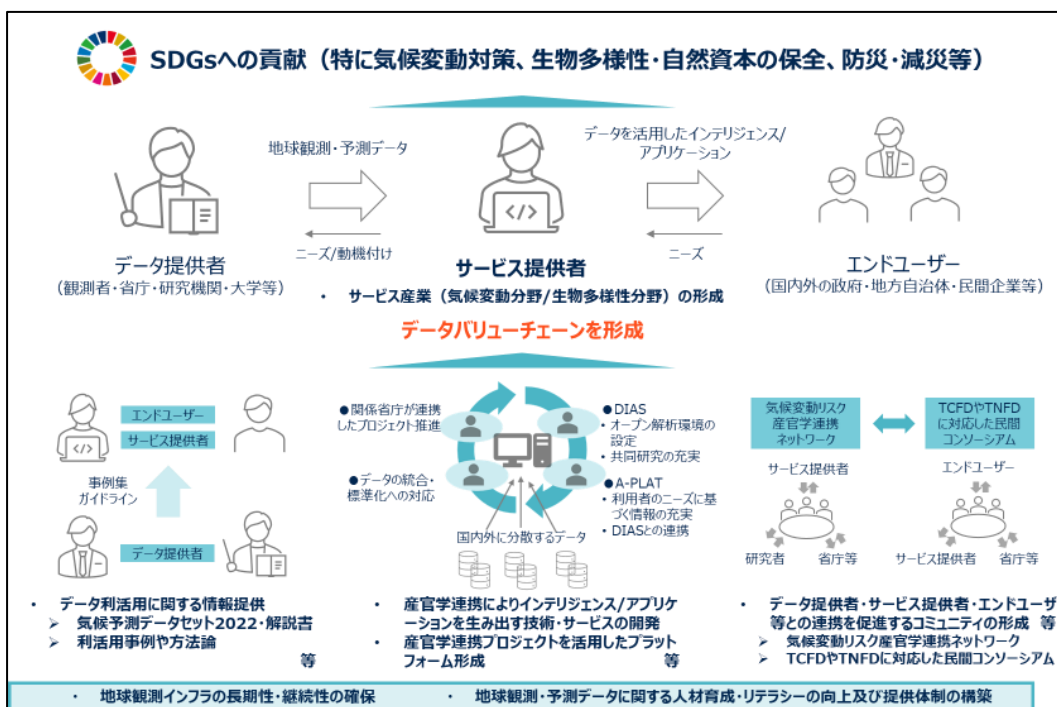
【地球観測とデータ利活用の好循環の実現（今後目指すべき理念イメージ）】



【論点】

- 「課題解決を志向した地球観測インフラの長期性・継続性の確保」
- 「地球観測・予測データに関する人材育成・リテラシーの向上及び提供体制の構築」
- 「データバリューチェーンの構築・強化」
- 「気候変動の現状把握や緩和策・適応策への貢献」
- 「生物多様性の現状把握・保全及び自然資本の持続可能な利用」

【データバリューチェーンのイメージ】



3. 文部科学省の今後の対応

関係省庁とも連携しつつ、本提言内容の実現に取り組むとともに、更新が予定されている「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」の検討において、個々の論点や具体的施策等についての議論をさらに深めてまいります。

4. 報告書

本とりまとめについて、文部科学省ウェブサイトに掲載します。

URL: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gi_jyutu/gi_jyutu2/105/1422531_00003.htm

<p><担当> 研究開発局 環境エネルギー課 環境科学技術推進官 久芳（内線 4470） 地球観測推進専門官 甲斐（内線 4478） 電話：03-5253-4111（代表） 03-6734-4181（直通）</p>
